

支援者部門受賞者

精神疾患を抱えるホームレス状態の人たちを支援、医療・福祉へのアクセス改善に尽力

世界の医療団 東京プロジェクト【東京都】

国際 NGO の世界の医療団は、ホームレス状態の人の約 6 割に何らかの精神疾患があることを知り、NPO 法人 TENOHASI、べてぶくろと共同で 2010 年「東京プロジェクト」を設立。精神科医、臨床心理士、精神保健福祉士、看護師などからなるプロジェクトメンバーが路上や炊き出しの場に出て、精神疾患を抱えるホームレス状態の人々を医療や福祉につないだり、社会復帰を目指したプログラムを展開したりと包括的な支援を行っている。地域や行政、医療機関と連携し、見過ごされてきた支援を開拓する取り組みが評価された。

●精神疾患を抱え、孤立を深めるホームレス状態の人々

現在、行政によるホームレス対策には、精神障害者に対応しているものがなく、統合失調症やうつ病など何らかの精神疾患を抱えたホームレス状態の人の多くは、保護された施設において、病気による症状を「ワガママ」などと思われ理解されなかったり、集団生活に適応できなかつたりして再び路上に戻ってしまうこともあるなど、孤立を深めている。

●医療や福祉につなぐ支援

「東京プロジェクト」は、精神疾患を抱えるホームレス状態の人々から路上や炊き出しの場で相談を受け、生活保護や適切な医療を受けられるよう関係機関に宛てて手紙を書いたり、病院や区役所などに付き添ったりといった活動を行っている。プロジェクトコーディネーターの中村あずささんによれば、「精神疾患のある人は、自らの困難な状況について人前で説明することが苦手な人も多く、自力で支援を得ることが難しい場合が多い」という。

●当事者も支援する側へ

支援によりホームレス状態を脱した人の中には、その後支援する側にまわる人もいる。現在も路上で暮らす仲間のためにパンを焼き、配って回りながら声をかける。「誰かを支えているという自負が、自信につながっているように思います」と中村さん。町内会のフリーマーケットなど、地域住民の理解により増えてきた地域活動への参加も、当事者の生活能力を引き出したり、生活に必要なコミュニケーションに慣れるなどの社会復帰を目指したりハビリとなっている。

●社会復帰を目指した包括的な支援

「東京プロジェクト」は、シェルターの提供や日常生活のサポート、政策提言など包括的な取り組みを行っている。今後について中村さんは、「他の地域の支援にもつながるモデルを確立したい」と語る。



ホームレス状態を脱した人らが、地域の支援者の自宅でパンを焼く様子



焼いたパンは「夜回り」でホームレス状態の人々に配られる



プロジェクトコーディネーター 中村あずささん

【世界の医療団 東京プロジェクト WEB サイト】

<http://www.mdm.or.jp/activity/domestic/tokyo.html>